

## 未来の自分

「未来の自分」を思い描いたとき一番輝いているのは、「国際公務員として世界を舞台に働いている自分」である。

私の夢の原点はマザー・テレサの一生を書いた一冊の本である。そこには「あなたがちよつとほほえむだけでいいのです。新聞を読んであげると喜ぶ目の不自由な人も、買い物をしてあげると喜ぶ、重い病気の母親もいるでしょう。小さいことでいいのです。そこから、愛は始まるのです。」というマザーの言葉があった。私はこれを読んだときこんなに素敵な言葉を残し、数えきれない人の心の支えになったマザーのような人になると強く心をきめた。そんな中で見つけた国際公務員という仕事。どの国の政府からも拘束されず、中立の立場、かつグローバルな視点で教育の普及、難民救助などを行うという仕事。この仕事が一番なりたい自分に近づけると私は思った。この仕事に務くにあたり私が一番必要だと思う力は、物事を客観的に公平に捉えることだと思う。私は日本を「思いやりが深く親切な人ばかりで、国内で助け合うのはもちろん、他国にも手を貸す誇れる国」だと思っている。しかし、最近読んだ本に日本を移民も難民も受け入れず、独自の文化を維持している国と捉える人も少なからず存在すると書いてあった。私は日本をこんな風に考えたことがなかったし、それが悔やしかった。同時に物事を第三者の立場に立ち、幅広い視野で考えることの重要さを改めて感じた。そしてそういう力をもつと培っていかうと思った。

だから私は、今のうちに色々な人、国の文化や考え方をたくさん学び吸収し、公平な立場で問題を見、解決できるようにになりたい。そして世界中の多くの人をどんな形からでもバックアップし、少しでも早く、多くの現代の世界問題を解決し今よりも更なる世界平和を目指したい。だから私は、国際公務員になりたい。これが私の考える一番輝く未来予想図である。